

2012年度森基金研究課題 成果報告
情報社会における「新しい公共」を支える技術と制度研究
慶應義塾大学政策・メディア研究科後期博士課程
西田亮介
ryosukenishida@gmail.com

■具体的調査

- ・「新しい公共」に関する政策研究

「新しい公共」の政策史を概観。「新しい公共」をめぐる、新自由主義／社会的包摂という理念の対立、さらに、新しいステイクホルダー／旧来のステイクホルダーという利害の対立が生じ、その過程で「新しい公共」が骨抜きになっていることを分析。論文執筆中。

- ・ソーシャルビジネスとNPO税制に関する研究会出席

新寄付税制とNPO法改正によって、NPOが税理士の新しい案件となることへの期待が集まっている。税制とNPOについて、実務家と支援機関関係者による研究会に出席。

- ・政治家と情報化研究の開始

政治と情報化についての研究を開始。新しい情報技術（ソーシャルメディア）がどのように政治家の言説に影響を与えているかという研究を開始。2012年度日本公共政策学会研究大会にて学会報告決定済み。

■アウトプット

- ・西田亮介・塚越健司編著、2012、『「統治」を創造する』（春秋社）

情報社会と新しい公共について、関連諸分野の若手とともに論文集を発行。編者を務める。情報化と技術、政治、ビジネス、想像力、寄付の変化について論述。

- ・シンポジウム：2012年1月23日

「統治」を創造するー新しい公共、オープンガバメント、リーク社会

（以下、尾崎行雄記念財団ウェブ (<http://ozakiyukio.or.jp/project/2011/12/post-9.html>) より引用)

日本を揺るがした大震災。そこで人々をつなげたのは「Twitter」や「助けあいジャパン」などにおけるSNSだった。またウィキリークスによる機密情報のリークやジャスミン革命における

「Facebook」の活躍なども連日報告されてきた。これら「支援」から「革命」までを横断する、高度情報化社会における変革の背景には何が見えるのか。一人一人が世界を変えられる時代に必要なヴィジョンとは。12月に発売された『[統治を創造する](#)』の執筆陣が語り尽くします。

登壇者

西田亮介（にしだ・りょうすけ）：

1983年生。東洋大学非常勤講師。慶應義塾大学大学院後期博士課程在籍中。中小機構リサーチャー、デジタルハリウッド大学非常勤講師等を兼任。

塚越健司（つかごし・けんじ）：

1984年生。一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程在籍中。専攻は社会哲学・政治社会学。フーコーからウィキリークスまで幅広く研究。

谷本晴樹（たにもと・はるき）：

1973年生。（財）尾崎行雄記念財団主任研究員。Inter Press Service Japan理事。ネットメディア『政策空間』編集委員。政治社会学会監事。

吉野裕介（よしの・ゆうすけ）：

1977年生。京都大学博士（経済学）。日本学術振興会特別研究員、スタンフォード大学客員研究員を経て、現在京都大学GCOE研究員。

藤沢 烈（ふじさわ・れつ）：

1975年生。（社）RCF復興支援チーム代表理事。一橋大学社会学部卒業後、飲食店経営、マッキンゼーを経て独立。ベンチャーやNPOの支援に携わる。東日本大震災復興対策本部非常勤スタッフ。

生貝直人（いけがい・なおと）：

1982年生。東京大学大学院学際情報学府博士課程在籍中。慶應義塾大学SFC研究所上席所員（訪問）、NPO法人クリエイティブ・コモンズ・ジャパン理事、東京藝術大学総合芸術アーカイブセンター特別研究員等を兼任。

イケダハヤト：

1986年生。早稲田大学政治経済学部卒業後、大手半導体メーカー広報を経て、独立。ライター、講演活動、政治家やNPOのソーシャルメディア活用支援を行う。

円堂都司昭（えんどう・としあき）：

1963年生。早稲田大学第二文学部東洋文化専修卒。文芸・音楽評論家。『「謎」の解像度—ウェブ時代の本格ミステリ』（光文社）で日本推理作家協会賞と本格ミステリ大賞受賞。

【日 時】 2012年1月23日（月）午後6時00分～8時00分

【会 場】 憲政記念館 第一会議室

（千代田区永田町1-1-1：有楽町線永田町駅、丸ノ内線国会議事堂前駅2番出口・徒歩5分）

■今後の課題

森基金の補助によって始まった萌芽的研究をさらに伸ばし、その成果を公開していくこと。